



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

# 病院だより

2015年3・4月

第303号

第303号【2015年3・4月】

発行者：昭和大学藤が丘病院・

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者 高橋 寛

(広報委員長)



2015年4月、両院で154名のフレッシュメン・フレッシュウイメンを迎えました。

昭和大学藤が丘病院満40歳の誕生日を目前にして思う

昭和大学藤が丘病院 病院長 眞田 裕

## 「すすき野に大学舎成りぬ ああ50年」

昭和大学の初代産婦人科教授で俳人の水原秋桜子(本名 水原豊先生)が大学創立50周年記念に詠まれたこの句碑は旗の台キャンパスの中ほどにあります。私は会議の合間にこの前に佇んで大学90年の歴史に思いを巡らすことがあります。



秋桜子がこの句を詠まれた少し前の昭和50年に藤が丘病院は開院しましたが、第2病院開設の計画は昭和43年に当時の理事長上條一也先生を中心にスタートしています。上條一也先生は「卒業生が皆 教授になるつもりで勉強せよ。強い意志をもってその道を歩め。」と学生を激励されました。また、研究の高揚は卒前・卒後教育の充実裏打ちされなければならないと考え、そのためには大学に第2の教育病院が必要であると判断されたのです。藤が丘病院は全国医科大学の第2病院の嚆矢となり、その成功を見て医科大学に次々と第2病院が開設されています。

閑話休題 作家 半藤一利さんは日本近代史の「四十年史観」を展開されています。明治維新から新しい国づくりに励んで40年、日露戦争に勝利したものの、次の40年間はさらなる戦争に突き進んで国を滅ぼしてしまった。戦後独立国として出発した昭和27年から努力して高度成長を遂げ、40年後にはバブルがはじけてしまった、ということです。

翻って藤が丘病院に話を戻します。昭和大学の前身昭和医学専門学校創設後40年に亘る先輩方のご努力の上に藤が丘病院が開設されました。藤が丘病院開設後の40年間、先輩諸兄姉と皆様方の更なるご努力によって教育病院として揺るぎない業績を上げることが出来ました。いま、次の40年に向けて病院の再整備計画が始まりました。私たちは過去40年間に培われた藤が丘病院の‘財産’を失うことが無いよう、正しい方向に進みたいと考えます。すなわち、故上條一也先生のご遺志を引き継ぎ、

“世界に貢献できる医療人”を育成する教育病院であり、また、高度急性期医療の担い手として超高齢者社会の地域医療に貢献できる地域中核病院であり続けたいと考えます。私は40周年を迎える本年度 皆様と一緒に働けることを感謝しています。何卒宜しくお願い申し上げます。

桜咲く

藤が丘リハビリテーション病院 病院長

三邊 武幸

春になると、藤が丘病院、リハビリテーション病院共に桜が満開となり、町の人がお花見に来られます。桜はヨーロッパ・西シベリア・日本・中国・米国・カナダなどに分布しています。日本では、桜前線、桜の開花宣言、満開宣言と、何かと話題になります。桜は、日本人には他の植物と違い愛着があります。今回は、両病院の桜についてご紹介します。



リハビリテーション病院には、病院横にソメイヨシノが咲き乱れます。入院患者さんが、病院スタッフと一緒に花見を。ソメイヨシノは、江戸末期から明治初期に、江戸の染井村の造園師や植木職人によって育成されたそうです。本数を数えたらリハビリテーション病院の桜は5本でした。今年は4月にリハビリテーション病院内に「昭和大学スポーツ運動科学研究所」が開設します。ソメイヨシノを数本植樹しようと考えています。

藤が丘病院の桜は、2種類の桜があります。玄関前に強いピンクのヤマザクラがあり、3月下旬に満開となります。日本の野生の桜の代表的な品種で和歌にも数多く詠まれています。「吉野の桜」とは本来このヤマザクラを指し、日本の象徴とされた桜だそうです。そし



て2週間後、駐車場の横にヤエザクラが咲きます。ヤエザクラは、野生のヤマザクラに対して、人里に咲く桜ということからサトザクラとも呼ばれるそうです。

藤が丘病院は今年40歳(昭和50年開設)、リハビリテーション病院は25歳(平成2年開設)が経過し、藤が丘病院の建て替えが計画されています。病院を建て替えた後も桜は残るのか、大変興味があります。

今回紹介した3種類の桜の記述が正しいのか否か自信が持てず、一抹の不安が残ります。桜に造詣の深い方から正確な情報がいただければと思います。

#### 退任挨拶

### 藤が丘病院の明るい未来

藤が丘病院内分泌代謝科 谷山 松雄

藤が丘病院に勤務して14年、皆様のおかげでこの度定年を迎えることとなりました。これまで長い間、ほんとうにありがとうございました。

この10年は長寿社会に備えた医療改革の時期で、病院のありようも随分と変わってきましたが、当院は院長のもと、一致団結して改革を先取りする形で変革してきました。私ども内分泌代謝科も、急性期医療や癌治療の中心ではありませんが、病院全体の進むべき道に全科を上げて協力してきました。同時にどこまで達成できたかは皆様の評価にゆだねますが、専門性に磨きをかけ、多数の患者さんを紹介していただいています。藤が丘病院は、スタッフは優秀で良い病院にしたいという意欲も強く、さらには駅前という地の利もあり、良い病院、患者さんが受診したい病院の条件が揃っています。今後新棟建設も予定されており、スタッフのやる気を最大限に引き出しますます地域に貢献できる病院になっていくことと信じています。

4月からは内分泌代謝科は糖尿病・代謝・内分泌内科と装いも新たになり、新しい診療科長も近々着任すると思いますが、皆様どうぞよろしく願います。



を構成します。このメンバー全員が一丸となってミッションに取り組み、近い将来、本邦のスポーツ健康医科学の研究・教育・臨床を牽引して行くことになると思われます。

話は遡りますが、2014年5月に、リハ病院において、研究所のフィールドワークの主たる場となるスポーツ健康外来がオープンしました。まずは整形外科(肩肘関節、膝関節)と、内科(循環器・健康スポーツ)の2部門で始め、整形外科では主に、野球における投球肩肘障害や、前十字靭帯損傷など膝関節のスポーツ外傷の診療を、内科では主に、心臓リハビリテーション・心肺運動負荷試験や、



スポーツリハビリテーション学生競技者の心臓メディカルチェックを行ない、リハビリテーションセンターと生理機能検査室との緊密な連携のもと、両科とも診療を充実させてきました。そして、この4月からは、更



心臓リハビリテーション室

に診療を強力にするべく、スポーツ歯科がリハ病院内に診察室を設け参入することが決まり、また女性アスリート診療における藤が丘病院産婦人科との協力体制も整ってまいりました。約1年をかけ、ここまで来ましたが、研究所の本格稼働に合わせ、今後も発展させていく予定です。

スポーツ健康外来開始と時を同じくして、運営実務者委員会の前身である研究所の開設準備委員会が設置され、スポーツ運動科学研究所、ならびに本学のスポーツ健康診療のあり方や、方向性について話し合いが行われてきました。この委員会では、三邊委員長を中心に、短期的な診療体制の整備についてから、今後10年以上にわたる時間軸での研究テーマと診療の拡充化についてまで、何度もミーティングを重ね、議論を尽くしてきました。



開設準備委員会

ここでのメンバーは多岐に渡り、先の診療科やリハビリテーションセンターに加え、リハビリテーション医学講座、他の昭和大学関連病院診療科、医学部公衆衛生学講座、薬学部、保険医療学部や富士吉田教育部、栄養科、事務部など、まさにオール昭和体制で、様々なバックグラウンドを持つ者同士が、白熱教室のような(?)活発な議論を行ってきました。その成果のひとつが先に述べたスポーツ健康外来の展開でした。今後も、スポーツ健康外来をより優れた診療提供の場にするのと同時に、リサーチフィールドとして機能するように企画をしていくことは、私達の大切な課題となっています。

また、研究所が執り行う重要な責務としては、高度な研究と教育開発の推進があります。以下に、開設準備委員会で掲げられた研究テーマの一部をお示しします。

- ・メディカルチェックを活用したスポーツ運動疫学研究
- ・スポーツにおける3次元動作解析研究
- ・内部障害リハビリにおける運動生理学・栄養学・行動学研究

### 昭和大学スポーツ運動科学研究所の開設に寄せて

開設準備委員 礪 良崇(藤が丘リハビリテーション病院 循環器内科)  
西中直也(藤が丘病院 整形外科)

昭和大学スポーツ運動科学研究所は、本邦のスポーツ健康科学分野における学術、および、教育の発展に寄与すべく、「医系総合大学」である本学の特徴を生かした学術連携による教育・研究・臨床を網羅した融合型研究創造のための拠点として、2015年4月1日に藤が丘リハビリテーション病院(以下、リハ病院)内に開設されることとなりました。本学4番目の研究所として設立され、



1) スポーツ科学・健康科学に関する研究及び教育を行う。

2) 基礎から臨床に至るまでの先進的研究を行う。

をミッションとして活動して行くことを目的としています。初代所長として藤が丘リハビリテーション病院三邊武幸院長が就任され、所長以下、各関連教室・診療科・部署の代表が運営実務者委員会

- ・運動時のマウスガードの有効性に関する研究
- ・スポーツ障害に関する性差研究
- ・内科疾患アスリートの心肺機能・代謝機能に関する研究
- ・障害者・高齢者の健康維持増進に関する研究
- ・系統的運動医科学教育システムの開発研究
- ・地域スポーツ健康活動支援に関する研究

ご覧の通り、この中には、スポーツ健康外来とリンクするだけでなく、全学規模で学際的に進めなければ出来ないものもあります。また、一見すると奇抜なテーマには見えませんが、これらテーマの個々をまたは横断する形で、昭和大学内の各学部、講座、診療科、部署の垣根を取り払い、力を結び付け、独創的な結果につなげていくことが使命となっています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機に、「スポーツ」と「健康」への関心がより一層高まっている中、本研究所は設立されます。時運に乗るような感に見えますが、目標はbeyond 2020で、時勢に流されることなく、スポーツ科学・健康科学を通して人間の可能性を探求する研究所を目指しています。大変やり甲斐のある仕事ですが、困難も想像に難くないです。そのため、この研究所に関わる人たちにまず求められるのは、スキルやアイデアではなく、至誠一貫の精神です。是非、志ある昭和大学人にこれからご参集いただき、一緒に発展させていきたいと思っております。

### ブラック・ジャックセミナー開催される

平成27年2月14日(土)午後、藤が丘病院にて将来の医療を担う人材の育成を目的とする職業体験セミナーである「ブラック・ジャックセミナー」が昨年に引き続き、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社共催・横浜市教育委員会後援のもとで開催されました。2回目となる今回は、横浜市青葉区周辺の小学生34名と、院内より医師・看護師・事務の総勢38名に加えジョンソン・エンド・ジョンソン他の共催企業より10名と、受講者を上回る48名のスタッフが参加しました。

ブルーのオペガウン一式に身を包んだ小さなブラック・ジャックたちは、最新の医療機器を使って、模擬手術や内視鏡トレーニング、心肺蘇生などを体験しました。

セミナー終了後は、コースディレクターを務めた消化器・一般外科の田中教授より修了証と記念品が一人一人に手渡されました。



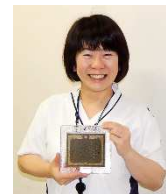
### 平成26年度看護業績賞が授与されました 大崎千恵子看護次長は3度目の受賞

平成26年度看護業績賞表彰式が3月18日に大学1号館理事長室にて行われました。看護業績賞は平成4年度に制定され、昭和大学附属病院の看護職員で、業績、人物ともに優秀な

者に対して授与されるものです。今年度は藤が丘病院大崎千恵子看護次長と藤が丘病院ER・救命救急センターチームが受賞の栄に浴しました。

大崎次長は『リハビリテーション病院における院内発生CPAに対する急変時対応研修の効果』で3度目の受賞となりました。

ER・救命救急センターチームは『藤が丘病院3次救急・ER受入れ対応—救急車拒否数



減少を目指した取り組み—』で、救命後方病棟の日ユニットで2次救命の受け入れを強化したことが標記の成果に繋がったことが評価されました。同チームの横尾師長より「今後も地域に貢献し、救急車拒否件数減少に向けて精進していく」との心強い受賞のコメントをいただきました。

### 藤が丘病院初期臨床研修修了式が開催されました

3月25日(水)午後、昭和大学藤が丘病院B棟6階講堂にて、藤が丘病院初期臨床研修修了式が開催されました。

今年度より、ゆうほうとホール(品川区西五反田)で行われる昭和大学附属病院全体の修了式に加えて、藤が丘病院独自の修了式が開催されることになり、各診療科の先生方にも研修修了者の門出を祝って頂くことができました。

修了式では眞田病院長のご祝辞、高橋副院長の乾杯のご発生に続き、谷山研修管理委員長より修了者へ修了証と記念品が授与されました。また、表彰式では研修2年間の総合評価を基に3つの賞が設けられ、表彰者に賞状と記念品が贈呈されました。修了者からは2年間の研修の思い出や4月からの抱負などのスピーチがあり、盛況の内に閉会しました。この場を借りて、お忙しい中ご参加頂きました先生方、初期臨床研修プログラムにご尽力頂きました先生方に感謝申し上げます。



### 154名の新人を迎えました

藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院では、4月から看護師98名をはじめ、助産師2名、薬剤師レジデント9名、理学療法士7名、作業療法士4名、診療放射線技師5名、臨床検査技師・管理栄養士・臨床工学士・視能訓練士それぞれ1名、事務員5名の新入職員134名と臨床研修医20名の合計154名のフレッシュなスタッフを迎えました。

4月1日(火)午前旗の台校舎・上條講堂で行われた昭和

大学新入職員入職式終了後、臨床研修医は引き続き旗の台校舎で、それ以外の職員は藤が丘病院に場所を移して4月7日までオリエンテーションが行われました。4月3日には全職種合同オリエンテーションが行われ、院内感染、接遇・マナー、医療安全の講義と消防訓練が行われました。

### 小児がん連携病院に指定されました

横浜市は、市内にある小児がん診療に実績のある4病院を「横浜市小児がん連携病院」に指定し、4月10日(金)に指定書

交付式が市庁舎で行われました。指定されたのは、県立こども医療センター、済生会横浜市南部病院、横浜市立大学付属病院、昭和大学藤が丘病院です。専門医、指導医が常勤していること



柏崎誠副市長(右)より指定書を受け取った磯山恵一小児科教授(左)

や、原則として年間10例以上の小児がん患者を診療していることなどが指定の要件となっています。

小児がんは子どもの病死原因の中で最も多いものです。しかし、がんの種類が多く、患者数も少ないことから、医療関係者でも認知が進んでおらず、診断・治療が遅れる場合があります。また、小児の成長に応じた長期にわたる相談支援や、成人後の円滑な診療への連携など課題が多いのが現状です。一方、小児がんは成人のがんに比べ化学療法や放射線療法の効果が高く70～80%が治るとされています。横浜市は今回、小児がん連携病院を指定することで、市民がどこを受診すれば良いのかを明確にし、診療や相談支援体制を充実させるとしています。

### 美味しいお話し第7回

#### 春のお弁当

もう二人の子供も巣立っていったので、お弁当を作ることもなくなった。長女が中学に入ってから長男が高校を卒業するまで7年

間、朝の弁当作りが日課だった。前日から用意してあれば、朝、楽なのはわかっているが、つつい何もせず朝を迎えることが多かった。そんななかで、寝坊をし、ごはんも炊けてなく、肉も野菜も何もないという三重苦の日があった。それでも冷蔵庫の中を探して作った「具なしのオム焼きそば」が7年間中、最低の弁当だと思っているが、娘は覚えていないというから不思議なものである。

暖かくなったこの季節、こんなお弁当はいかがだろうか。

- ・あざりとグリーンピースのご飯
- ・ご飯にあうオムレツ
- ・筍の金平
- ・スナップエンドウとミニトマトのお浸し



#### ＝あざりとグリーンピースのご飯＝

【材料(2人分)】

- 米 1合
- あざり 殻つきで100g
- 生グリーンピース 房込み 100g(12房分)
- 酒 大匙1
- 塩 小さじ1/2

【作り方】

1. 米は洗って浸漬しておきます。
2. あざりは酒蒸しにして火が通ったら殻から身を外します。このとき出た汁はごはんを炊く汁に混ぜます。ピースは殻から外して洗ってそのまま炊飯器に入れて炊き込みます。ごはんが炊けたらあざりを混ぜ込みます。

#### ＝ご飯に合うオムレツ＝

【材料(2人分)】

- 卵 1個
- 釜揚げしらす 10g
- しば漬け 10g
- マヨネーズ 小さじ1
- 油 小さじ1

【作り方】

1. しば漬けはみじん切りにします。
2. 卵に材料をすべてまぜ焼きます。

(藤が丘病院栄養科 玉木 大輔)

### 診療統計 2015年2月・3月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2015年2月	2015年3月	2015年2月	2015年3月
外来患者数	26,943人 (1171.4人)	30,382人 (1215.3人)	4,545人 (197.6人)	5,078人 (203.1人)
入院患者数	14,376人 (513.4人)	16,077人 (518.6人)	5,037人 (179.9人)	5,411人 (174.5人)
紹介率	84.9%	86.8%	52.5%	52.8%
逆紹介率	72.7%	93.4%	64.4%	85.6%

《編集委員》

高橋 寛 佐々木 春明 小岩 文彦 池田 裕一 磯 良崇 芳賀 ひろみ  
 辻本 さなえ 吉原 利栄 出川 美幸 大塚 幸彦 小宅 育代 岩井 譜憲  
 飯田八代枝 松尾 悠 高橋 良治 (順不同)